

漁海況速報

5-No. 49

茨城県水産試験場
漁業無線局

令和6年 3月 15日～ 3月 21日

電話 (029) 273-7911

FAX (029) 270-1480

<http://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/nourinsuisan/suishi/index.html>

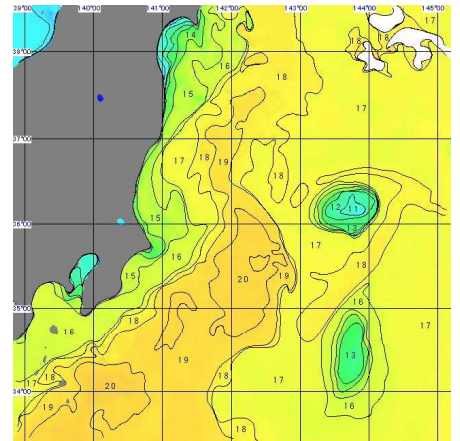
那珂湊定地水温 (°C)

日	令 6	令 5	平年
3/15	14.1	13.0	10.3
16	14.2	13.3	10.3
17	14.2	13.4	10.3
18	13.7	13.2	10.4
19	13.1	13.1	10.4
20	13.9	13.2	10.4
21	13.7	13.6	10.5
平均	13.8	13.3	10.4

30年平均: 1991～2020年

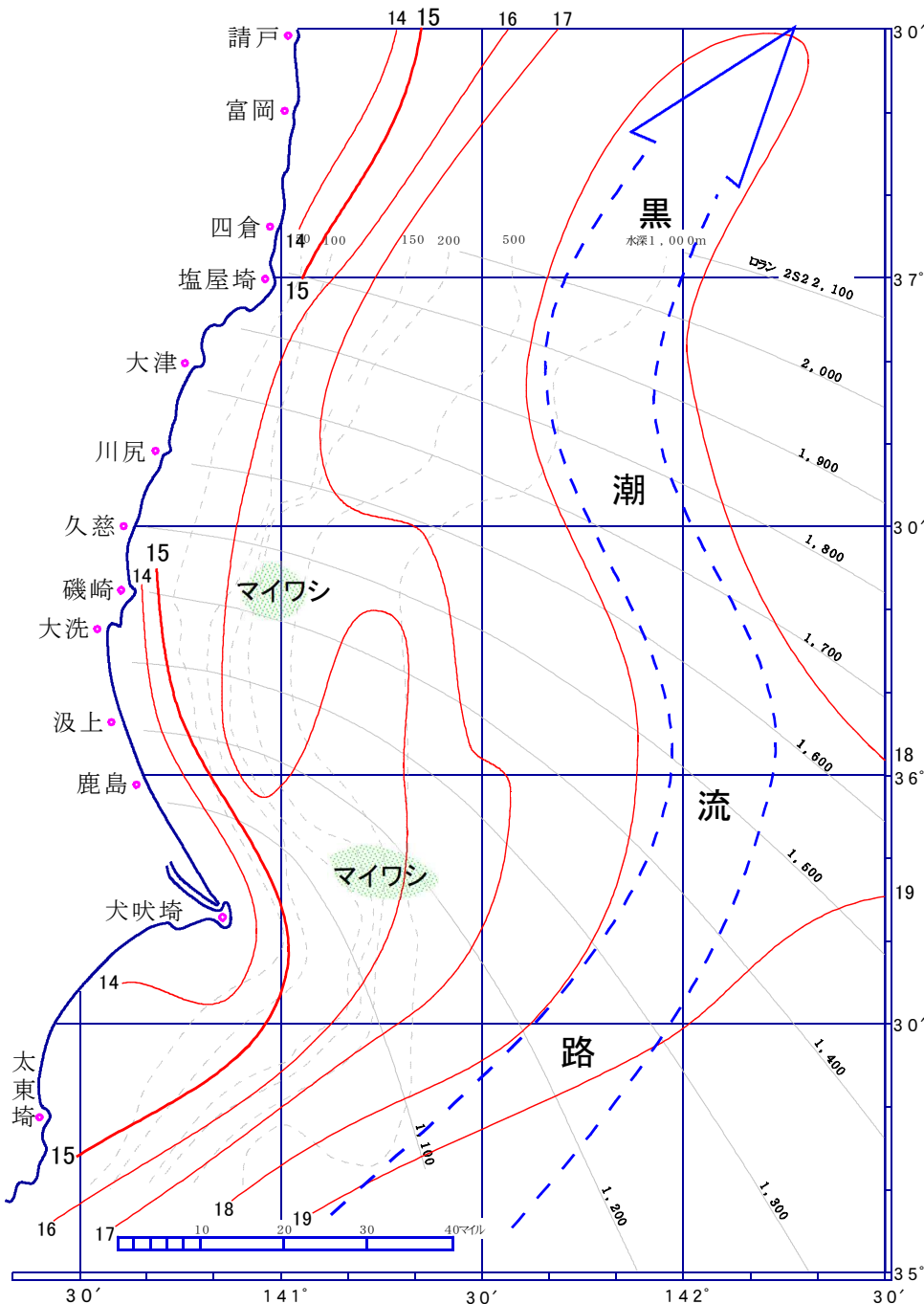
令和6年 3月 15日～ 3月 21日

【1週間合成衛星画像】

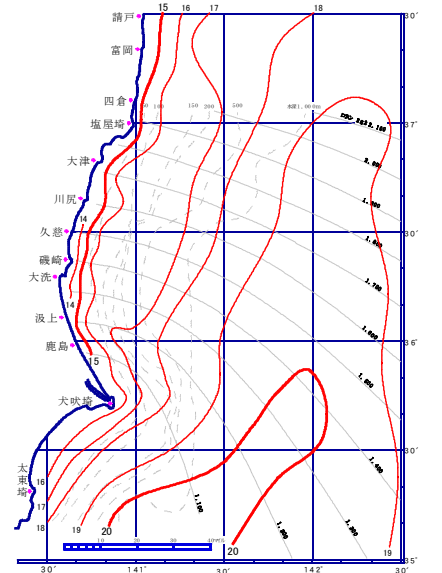


【海況図説明】

1. 黒潮は、犬吠埼の南東30マイル付近を北北東に流れ、
37°30' N 142°15' E付近を流去している。
2. 本県沿岸域は、13～16℃台の水温となっている。



【海況図】



令和5年 3月 17日～ 3月 23日

【海況図】

漁況の特徴

5 - No. 4 9

属地、単位＝四捨五入

3/14～3/20

魚種	漁法	組合名	水揚量 kg	平均単価	水揚金額 円	延隻数
本ジラス	船曳網	那珂湊	10	3,500	33,250	3
		大洗町	21	4,602	95,270	
シラス	船曳網	久慈浜丸小	2,410	498	1,199,286	14
		久慈町	715	478	341,812	7
		那珂湊	221	533	117,720	2
		大洗町	32,650	549	17,913,720	67
ヒラメ	小底5t以上	平潟	3,474	624	2,167,286	
	"	久慈町	529	923	487,980	
	"	那珂湊	879	1,206	1,059,372	
	その他釣り	平潟	15	1,202	17,904	
	"	那珂湊	22	1,753	37,680	
	"	大洗町	8	1,128	8,910	
大型定置網	会瀬	26	1,503	38,632		
マコガレイ	小底5t以上	那珂湊	1	200	200	
タイ類	小底5t以上	平潟	4,738	128	608,339	
	"	久慈町	118	651	76,545	
	"	那珂湊	548	750	410,751	
	その他釣り	平潟	13	564	7,278	
	"	那珂湊	7	411	2,960	
大型定置網	会瀬	342	436	149,021		
スズキ	小底5t以上	平潟	1,273	120	152,663	
	"	久慈町	14	156	2,199	
	"	那珂湊	317	413	130,829	
	その他釣り	平潟	3	591	1,596	
	"	那珂湊	9	531	4,940	
大型定置網	会瀬	2	350	700		
アナゴ	小底5t以上	平潟	962	533	513,017	
	"	久慈町	363	500	181,350	
	"	那珂湊	157	713	111,735	
アンコウ	小底5t以上	平潟	1,321	308	407,523	
	"	久慈町	721	216	155,775	
	"	那珂湊	356	276	98,313	
タラ類	小底5t以上	久慈町	38	172	6,540	
	"	那珂湊	10	146	1,475	
ホウボウ	小底5t以上	平潟	358	722	258,388	
	"	久慈町	10	1,016	10,160	
	"	那珂湊	74	853	63,230	
	その他釣り	平潟	1	1,100	1,100	
	"	大洗町	3	2,800	7,000	
大型定置網	会瀬	1	1,880	2,444		
フグ類	小底5t以上	平潟	8	2,130	16,185	
	"	那珂湊	7	2,230	16,280	
サワラ	小底5t以上	久慈町	1	1,200	1,200	
	"	那珂湊	3	1,500	3,900	
スルメイカ	小底5t以上	平潟	47	427	20,080	
	"	久慈町	40	1,050	42,000	
	"	那珂湊	19	1,191	22,280	
ヤリイカ	小底5t以上	平潟	3,598	507	1,825,030	
	"	久慈町	502	912	457,950	
	"	那珂湊	204	999	204,287	
	その他釣り	平潟	92	783	72,000	
マダコ	小底5t以上	平潟	74	591	43,525	
	"	久慈町	4	800	2,800	
	"	那珂湊	15	1,126	16,775	
マアジ	小底5t以上	平潟	507	136	69,017	
	"	久慈町	36	278	10,075	
	"	那珂湊	405	192	77,618	
	大型定置網	会瀬	5,158	206	1,063,197	
サバ	小底5t以上	平潟	2	680	1,360	
	"	那珂湊	21	127	2,690	
	大型定置網	会瀬	263	178	46,834	
ブリ類	小底5t以上	平潟	39	197	7,694	
	"	那珂湊	32	585	18,840	
	その他釣り	"	2	300	600	
	大型定置網	会瀬	9	963	8,470	
マイワシ	まき網	はさき	199,675	90	17,970,750	

◎ まき網 (漁獲は1投網当り)

マイワシ・・・那珂湊の東15マイル付近で10～40トン、犬吠埼の東北東20マイル付近で1～80トン、良い船で130～150トンの漁獲。

◎ 小型船 (漁獲は1隻当り)

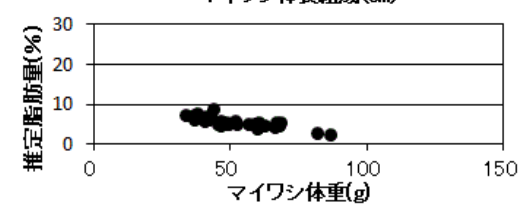
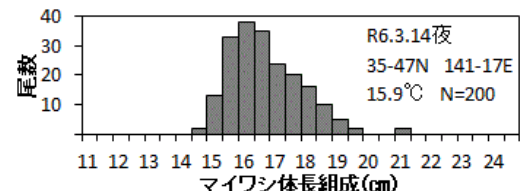
◇船曳網
シラス・・・大津地先から高戸地先で8～592kg、日立地先で29～740kg、大洗地先で149～947kg、銚田地先で100kg(1隻)の漁獲。

カエリ・・・大津地先から高戸地先で10～60kgの漁獲。

◇手釣り
平潟地先でヤリイカ20～36kgの漁獲。

◇曳釣り
平潟地先から高戸地先でヒラメ3～8kg、久慈浜地先から鹿島地先でヒラメ5～30kg、ホウボウ1～3kg、マゴチ1～2kg、イナダ1～3kg、アイナメ1kg前後、スズキ2～3kgの漁獲。

☆鹿島灘海域でマイワシを漁獲(まき網)
鹿島灘海域でマイワシの漁獲が形成され、14日夜は約1.7千トン/日の漁獲様となりました。15日に氷揚げされたマイワシのサイズは、体長14.5～21cm、モード16cm、体重30～85g、35～60g主体、脂肪は2～9%でした。



注 延隻数:銘柄別隻数

暖水の影響は継続し、0~100m深で「やや高め~高め」、 200m深で「平年並~高め」で推移する見込み

(令和6年3月の海況と今後の予測)

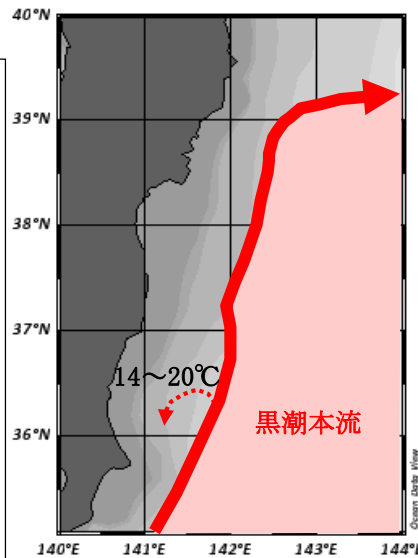


図1. 海況の現況
(3月15日)

※水温は平年値と比較して、
±1.5°Cが「平年並」、
±1.6~3.9°Cが「やや高め・やや低め」、
±4.0~6.0°Cが「高め・低め」、
±6.1°C以上が「極めて高め・極めて低め」

1 海洋観測結果 (3/11、15: 調査船「いばらき丸」)

- 水深別水温図を図2、3、4に、鉛直図を図5に示しました。水温は0m深で14~20°C台、50m深で14~19°C台、100m深で12~19°C台、200m深で8~15°C台でした(図2)。
- 前月と比較すると、鹿島~犬吠埼では黒潮の離岸に伴い降温傾向となりました(図3)。会瀬~大洗の141° 30' E以东では黒潮の影響、141° E周辺では黒潮からの反流の影響により昇温傾向となりました。
- 平年と比較すると、0~100m深で「やや高め~高め」、200m深で「平年並~高め」(黒潮本流が流れる本県沖合域では「高め~極めて高め」となりました(図4))。
- 潮流は、会瀬~鹿島の141° 30' E以东の黒潮流路と犬吠埼定線全域で真潮傾向、他で概ね逆潮傾向となりました。

2 本県周辺海域の現況

- 本県沿岸域の0m深水温は14~20°Cとなっています(図1)。
- 黒潮は犬吠埼の東50マイル、塩屋埼の東70マイルを北北東に流れています。黒潮の北限は146° 30' E付近で39° 45' N付近まで達し、北偏しています。

3 今後1か月(4月中旬まで)の見通し

- 黒潮の北偏傾向は継続する見込みです。
- 本県沿岸域は、黒潮による断続的な暖水波及の影響を受けるでしょう。
- 1か月後の水温は、黒潮からの暖水の影響により、0~100m深で「やや高め~高め」、200m深で「平年並~高め」(黒潮本流が流れる本県沖合域では「高め~極めて高め」)で推移するでしょう。

【参考】3月の0m深の平年値(142° E以西の30年間(1991-2020)の平均水温)

(定線別平年値*) 会瀬: 10~12°C台、大洗: 10~13°C台、鹿島: 11~14°C台、犬吠埼: 12~16°C台

詳しい情報は茨城県水産試験場ホームページをご覧ください。

(回遊性資源部 小熊 進之介)

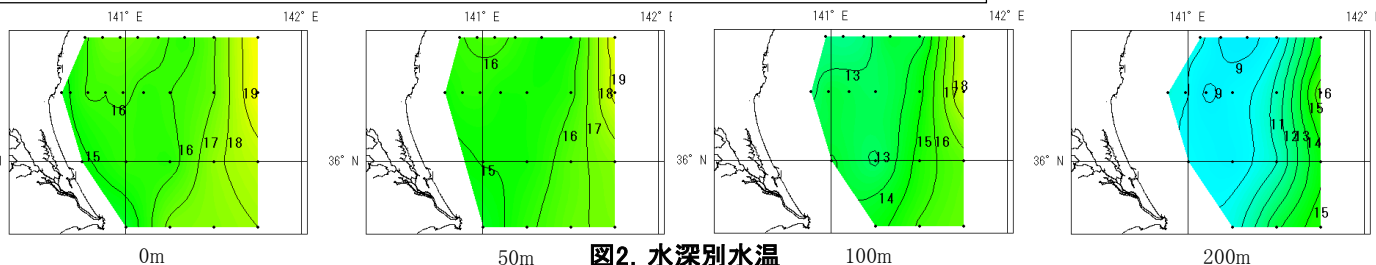


図2. 水深別水温

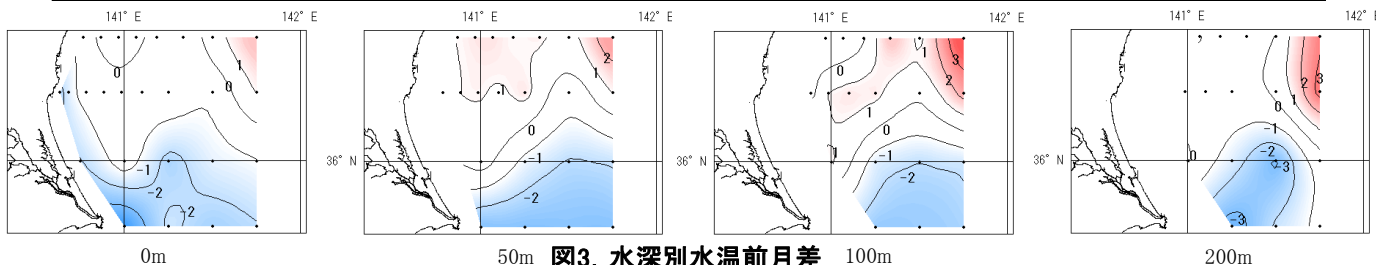


図3. 水深別水温前月差

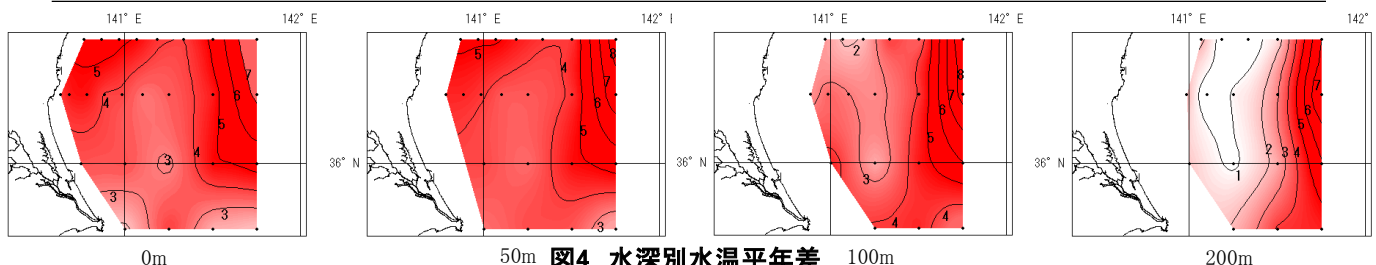


図4. 水深別水温平年差

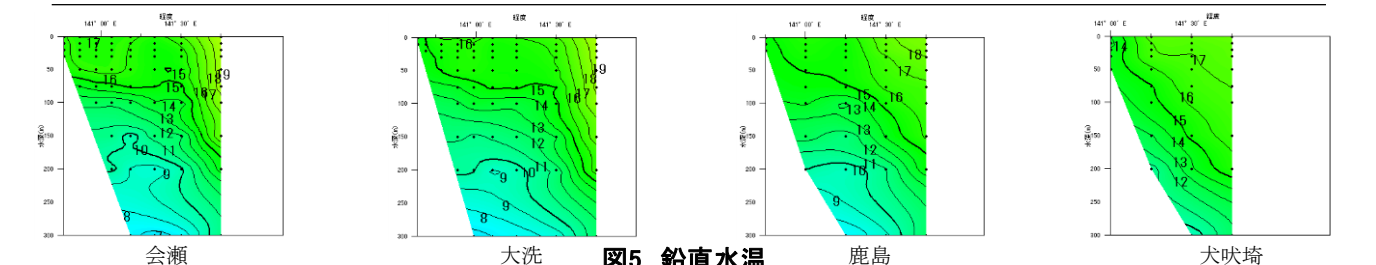


図5. 鉛直水温

底水温の観測結果

141° E

142° E

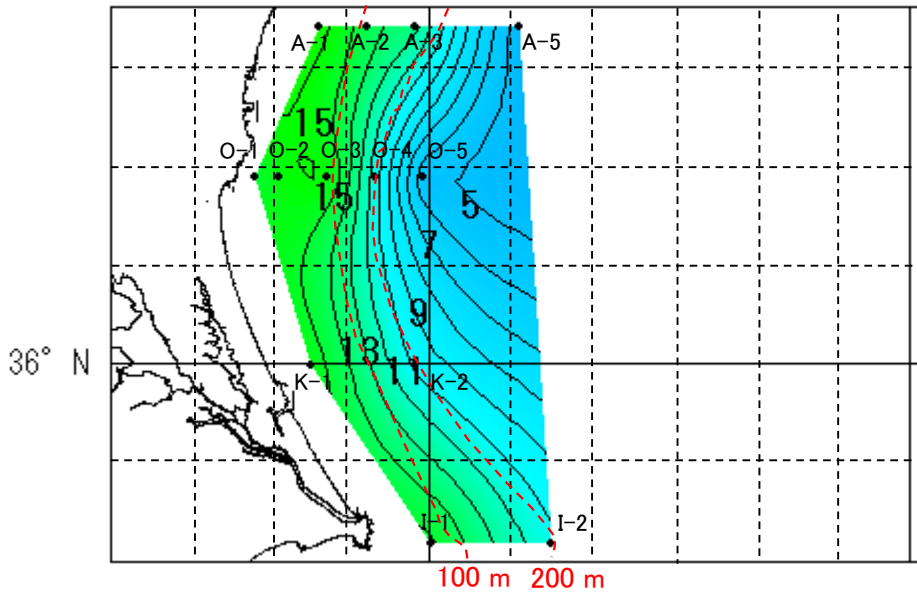
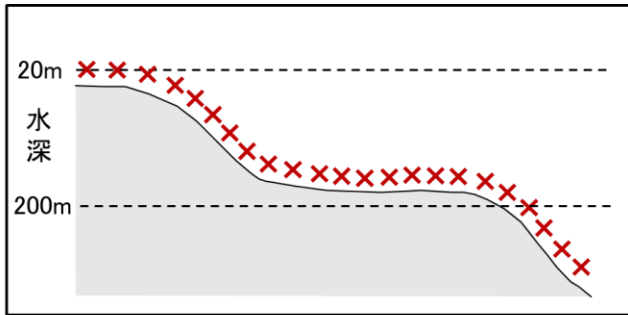


図. 令和6年3月の底水温(*海底直上約5~20m)



*底水温表示のイメージ図

- 海洋観測で得られた最下層の水温データ(左図参照)をもとに底水温図を作成しました。
- 水深100 m以浅の底水温は13~15°C台でした。詳細は下表を参照ください。

茨城県水産試験場 海洋観測結果(2024年3月)

調査船: いばらき丸 調査海域: A=会瀬定線(県北部海域), O=大洗(県中部海域)定線, K=鹿島定線(県中部海域), I=犬吠埼定線(県南部海域)

観測点番号	A-1	A-2	A-3	A-5	O-1	O-2	O-3	O-4	O-5	K-1	K-2	I-1	I-2
月日	3/11	3/11	3/11	3/11	3/11	3/11	3/11	3/11	3/11	3/15	3/15	3/15	3/15
緯度	36° 34'	36° 34'	36° 34'	36° 34'	36° 19'	36° 19'	36° 19'	36° 19'	36° 19'	36° 00'	36° 00'	35° 42'	35° 42'
経度	140° 46'	140° 52'	140° 58'	141° 11'	140° 38'	140° 41'	140° 47'	140° 53'	140° 59'	140° 45'	141° 00'	141° 00'	141° 15'
開始時刻	22:00	21:33	21:00	19:42	9:13	9:29	9:54	10:36	11:06	9:29	19:52	11:18	12:23
終了時刻	22:07	21:42	21:08	20:04	9:17	9:34	10:08	10:47	11:23	9:38	20:13	11:29	12:36
水深	55m	100m	133m	529m	23m	29m	73m	238m	501m	28m	226m	78m	224m
流向(10m)	153	204	198	222	140	59	29	94	171	216	150	45	34
流速(10m)	0.1	0.3	0.9	0.4	0.2	1.1	0.4	0.1	0.6	0.3	0.7	0.7	1.3
流向(50m)		192	173	251				22	143		180	62	26
流速(50m)		0.7	0.5	0.4				0.2	0.5		0.6	0.4	1.0
流向(100m)			221	209				207	144		214		54
流速(100m)			0.8	0.3				0.2	0.6		0.7		1.4
水温 0m	15.8	17.0	17.0	16.3	14.2	15.2	16.2	16.0	16.3	14.8	15.9	14.1	17.4
10m	15.5	16.7	16.7	16.0	14.7	14.9	15.6	15.7	16.0	14.7	15.6	13.6	17.0
20m	15.5	16.8	16.7	15.9		14.9	15.3	15.7	15.9	14.6	15.6	14.2	16.9
30m	15.5	16.7	16.6	15.9			15.1	15.6	15.9		15.4	14.3	16.8
50m		15.9	16.2	15.8			15.1	15.6	15.7		15.1	14.3	15.8
75m		13.9	14.6	15.2				13.9	14.6		14.7		14.9
100m			12.4	12.5				12.6	13.9		14.1		14.7
125m				11.1				12.5	12.3		13.1		14.3
150m				9.3				11.4	10.7		12.5		12.9
175m				9.0				10.9	10.4		11.5		12.0
200m				8.8				10.5	10.2		10.0		10.4
250m				8.6					8.3				
300m				7.3					6.7				
400m				5.5					5.5				
500m				4.4									
観測最下層水深(m)	46	91	121	501	19	25	64	227	482	21	207	67	214
観測最下層水温(°C)	15.4	13.4	12.4	4.4	13.8	14.8	15.0	10.5	5.2	14.6	9.8	14.3	10.3

備考

・流向流速値は補正前の数値のため、誤差を含んでいます。

・流向は海流・潮流が流れて行く方向を示しています。(例 0° = 真潮, 180° = 逆潮)

水産の窓

底魚資源調査（冬季）を実施しました

水産試験場では、本県沖の主要な底魚類の資源動向を把握するため、H15年から調査船いばらき丸（179t）により年2回（夏季、冬季）の着底トロール調査（オッタートロール）を実施しています。本調査では、本県沖の水深75～450mまでの海域、合計29定点において、15～30分間（速力3～4ノット）網を曳き、面積密度法により本県海域の現存量を推定しています。今回は令和5年11月～令和6年1月に実施した冬季調査結果についてお知らせします。

1 主要な底魚類の推定現存量の推移

H26年度から今年度までの推定現存量の推移を下表に示しました。また、参考として、県で資源評価を行っている魚種については資源水準も記しました。

漁獲対象種の増減傾向を直近5年間の推移から判定した結果、増加傾向にあるのはヤナギムシガレイ、ババガレイ（なめた）、ミギガレイ（にくもち）、アオメエソ（めひかり）、アカムツ、ユメカサゴ（のどぐろ）の6種、横ばい傾向にあるのはマコガレイ（本まこ）、マガレイ（沖まこ）、ムシガレイ、ヤナギダコ（水だこ）、エゾイソアイナメ（どんこ）、マダラの6種、減少傾向にあるのはヒラメ、アカガレイ（赤がれい）、キチジ（あかじ）、マアナゴ、マトウダイの5種でした。その他、漁獲対象とはなっていないトラザメ（ねこざめ）は横ばい傾向、テナガダラ（とうじん）は減少傾向でした。

昨年度と比較して、増加傾向の魚種数が増加し（3種→6種）、減少傾向の魚種数が減少しました（7種→5種）。新たに増加傾向となった魚種はババガレイ（なめた）、ミギガレイ（にくもち）、ユメカサゴ（のどぐろ）で、特にユメカサゴ（のどぐろ）は小型個体も多く採集され、今後の漁獲増が期待されます。

		(単位:トン)											過去10年平均	
魚種/年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	傾向	水準※		
漁獲対象種	ヒラメ	389	466	310	261	221	247	181	156	253	125	減少	中位	293
	ヤナギムシガレイ	30	48	46	37	52	57	32	65	61	75	増加	中位	48
	ババガレイ(なめた)	33	73	25	32	39	10	20	16	38	54	増加	低位	37
	アカガレイ(赤がれい)	84	96	94	66	73	51	85	25	9	3	減少	—	90
	マコガレイ(本まこ)	5	6	46	26	25	31	3	6	6	7	横ばい	低位	16
	マガレイ(沖まこ)	26	13	13	5	6	8	0	0	0	0	横ばい	低位	15
	ムシガレイ	181	162	248	187	416	324	327	406	409	391	横ばい	高位	275
	ミギガレイ(にくもち)	26	36	26	56	24	52	41	17	48	64	増加	—	37
	ヤナギダコ(水だこ)	119	35	105	122	104	74	102	88	54	99	横ばい	低位	101
	アオメエソ(めひかり)	6	25	14	173	30	28	7	370	57	77	増加	高位	73
	エゾイソアイナメ(どんこ)	73	100	577	347	401	223	1,033	402	188	361	横ばい	—	345
	マダラ	1,104	401	156	68	63	22	7	7	6	9	横ばい	—	234
	アカムツ	5	16	1	3	2	3	1	36	14	15	増加	—	8
	ユメカサゴ(のどぐろ)	10	28	11	32	17	45	11	20	23	59	増加	高位	21
	キチジ(あかじ)	25	3	117	102	71	119	72	38	27	26	減少	高位	58
マアナゴ	54	126	36	80	60	59	42	145	20	35	減少	低位	74	
マトウダイ	29	31	17	20	86	76	47	30	38	35	減少	—	43	
参考	トラザメ(ねこざめ)	2,236	2,739	3,271	1,843	3,183	2,697	3,465	1,697	6,230	2,623	横ばい	—	2,965
	テナガダラ(とうじん)	1,177	501	1,154	3,046	3,588	1,582	2,727	2,190	2,340	213	減少	—	2,107

※:水準:「茨城県産重要魚種の生態と資源」令和6年3月公表予定の資源水準。—は未評価。

表 推定現存量の推移（冬季トロール調査）

2 ヤナギムシガレイ、ユメカサゴ（のどぐろ）の資源状況

今年度の冬季調査の結果、ヤナギムシガレイとユメカサゴ（のどぐろ）は過去10年において最も多い資源量となりました（表）。全長測定データから推定した全長別資源量を計算した結果、ヤナギムシガレイは13～36cm（図1）、ユメカサゴ（のどぐろ）は7～23cmの幅広い組成が確認されました（図2）。両種の資源状態について、国の資源評価ではヤナギムシガレイは最大持続生産量（MSY）を達成する親魚量を上回っており、またユメカサゴは「高位・増加」と判断されていることから、資源状態は良好であると考えられます。夏季調査においてはアカムツとアオメエソ（めひかり）の資源が増加傾向であることを報告しましたが（水産の窓 5-No. 18 参照）、これらの4魚種は今後の漁獲増が期待されます。

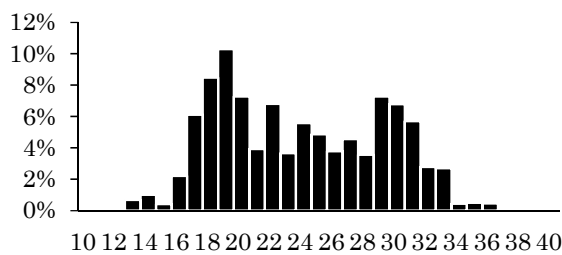


図1 ヤナギムシガレイの全長別資源量

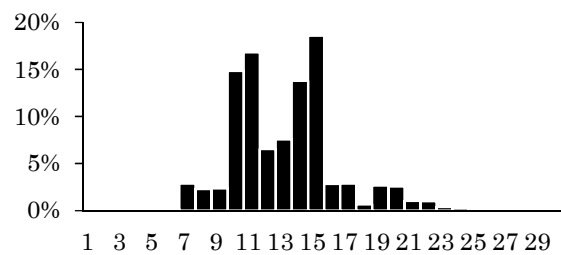


図2 ユメカサゴの全長別資源量

3 近年の底魚類の分布水深の変化

近年、黒潮続流の北偏や親潮の勢力の低下などにより、茨城県海域では海水温が平年よりも高い状態が継続しています。高水温が魚類の分布に影響を与える例はブリやタチウオ等で知られており、底魚類の分布も同様に高水温の影響を受けていると思われます。そこで過去11年間の底魚資源調査（冬季）で得られた水深別推定資源尾数から、ヤナギムシガレイ、ムシガレイ、アオメエソ（めひかり）の主分布水深を求めました（図3）。

その結果、ヤナギムシガレイとムシガレイでは主分布水深が年々沖合へと移動していることが分かりました（図3）。一方で、アオメエソ（めひかり）については水深の変化はみられませんでした。

今回検証した3魚種以外にも、分布水深が変化している可能性が考えられます。今後も、海洋環境の変化が底魚類に与える影響について、継続した調査を進めていきます。

（水産試験場 定着性資源部）

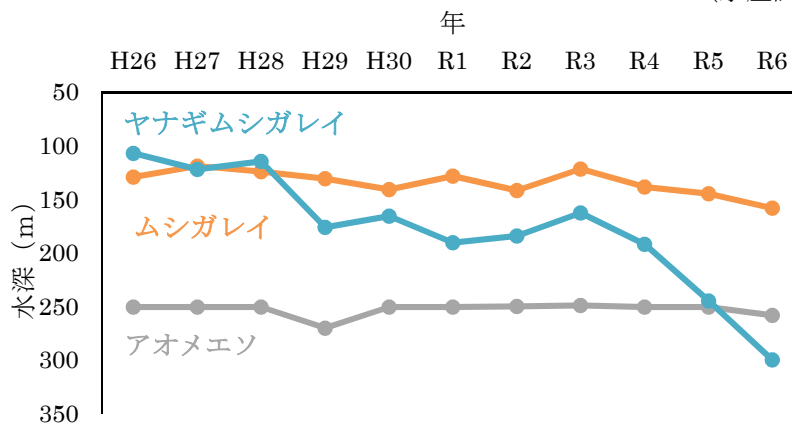


図3 主分布水深の推移